

第1回田原市都市計画マスタープラン策定委員会 議事要旨

日時：2007年9月21日（金）14：00～

場所：田原市役所 南庁舎 4F 政策会議室

議事次第

- 1.市長あいさつ
- 2.委員長・職務代理の選出
- 3.田原市都市計画マスタープラン策定委員会設置要綱について
- 4.検討事項
 - 1)都市計画マスタープラン及び策定体制について
 - 2)都市づくりにおける問題点と課題について
- 5.意見交換
- 6.その他

議事要旨

司会
市長

開会の宣言、議事次第に基づき市長へ挨拶を依頼

日頃から、市の都市計画行政の推進に協力を頂き感謝を申し上げます。

「都市計画マスタープラン」を策定する際、今までは庁内の職員により策定しており、策定委員会の設置は初めての試みと伺っています。

今回、策定委員を引き受けていただいた大学の先生方や各種団体の役員・市民代表の皆様には、2年間という長い期間ではありますが、ご協力をよろしく申し上げます。

また、策定委員の皆様におかれては、市民の目線や各種団体の意見として、この委員会で積極的な発言を期待しています。

この都市計画マスタープランは、都市の将来や土地利用の基本方針、都市施設の配置方針を明らかにすることで、都市計画の総合的な指針としての役割を果たすものです。

策定の背景と致しましては、少子高齢化、環境負荷の増大等、社会経済状況の変化や第1次田原市総合計画の策定されたことにより、新しいまちづくりを進めていくためにも、見直しが必要となりました。

今後、人口減少が進み、高齢化が加速する中で、自治体財政を保ちつつ、地域コミュニティを維持していくためには、都市機能の無秩序な拡散を防ぎ、行政や医療等各種諸機能を集約化し、コンパクトなまちづくりを進めていく必要があります。そのような方向性のもとで、3つの市街地をいかに連携させ、市の一体化を図っていくかが課題となっています。

このような市の課題を踏まえ、新しいまちづくりを進めていくために、市民の皆様と一緒にこの計画をつくりあげて頂きたい、この会議で活発な審

議をお願いするとともに、重要な決定事項については、是非参加させていただきたいと思いを。

本日は、よろしく申し上げます。

(挨拶後、市長退席)

司会 「田原市都市計画マスタープラン策定委員会設置要綱」に基づき、委員長の選出を行うよう委員に要請

委員 三宅委員を推薦する意見あり。

司会 三宅委員を推薦する意見について異議がないか確認を行う。

異議がないことが確認され、三宅委員に委員長席への移動を促し、挨拶を依頼

委員長 現在、東海学園大学で教鞭をとっていますが、数年前まで豊橋技術科学大学におりました。

在職中に田原町（当時）の計画（住宅マスタープランなど）づくりに参加する機会がありましたが、その後、町もだんだんきれいに整備されてきています。

今回、都市計画マスタープランの策定に当たり委員長を勤めさせていただきませんが、将来を見据えたしっかりした計画をつくりたいと考えております。

司会 以後、委員会の議事進行を委員長に依頼

委員長 設置要綱 5 条 3 項に基づき、委員長代理には海道委員を指名（開会にあたり、委員、事務局へ自己紹介を求める。）

委員・事務局 （委員・事務局 自己紹介）

委員長 議事 3 に入り、事務局に「田原市都市計画マスタープラン策定委員会設置要綱」に関する説明を求める。

事務局 (資料 1) について説明)

委員長 (議事 4 に入り、事務局に資料 2) の説明を依頼)

事務局 (資料 2) について説明を行う。)

委員長 資料について、まず、質問などございますか。

特に質問はないようでございますから、皆さんにご意見を順に伺って参ります。

委員 資料がよくまとまっており、わかりやすかったと思います。

コンパクトシティの説明については、一般的な図が用いられていますが、田原市の現実に合うかどうかは疑問です。田原市らしいコンパクトシティについては、現実を踏まえて議論しておく必要があると思います。

また、市街化調整区域での集落や住宅地をどうするかも大きなテーマだと思いを。

- 委員 田原市の場合には、『グリーン・コンパクトシティ』¹という考え方があり、これが参考になるのではないかと思います。
- 最後に、公共交通の活用についてですが、パークアンドライドだけでなく、渥美線周辺の利用、駅周辺の開発をどうするのかを検討していく必要があると思います。この面ではアメリカの『ニューアーバニズム』²が参考になるのではないかと思います。
- 委員長 街のいろいろな機能が市街地から外に出て行くという流れでこれまで地域づくりが進められることが多かったですが、旧田原町に関しては大切な機能を市街地の内部に持ってくるという取組みをしてこられ、これは重要なことだったと思います。
- また、コンパクトシティという市街地居住が強調されますが、市街地の外にお住まいの方が市街地内で居住するように計画するのは難しいと思います。
- 委員 現実を踏まえて計画作りを進めることが大切だと思います。
- 長岡市のように、市役所を駅前に移転させ鉄道駅との連携を図っている事例もあります。
- コンパクトシティといっても地域に即したものであることが大切です。
- 委員 交通についてですが、道路も大切だと思いますが、フェリーなども大切だと思います。
- また全体に環境に関する記述が薄いのではないかと感じます。特に、自然環境には特色のあるものがあり、もう少しきめ細かく書いてもよいのではないかと思います。
- 全体としてハードウェアに関する課題が多く、土地利用の規制のための法整備など、ソフト対策も含めたほうがよいのではないのでしょうか。
- 委員長 市民参加なども計画作りの基本として謳ってありますが、課題としては具体的に挙げられていません。こうした点も含めてソフト面を充実させることが必要だと思います。
- 委員 私もソフト面の取組みは重要だと思います。
- 市民との連携によるまちづくりについては、**20**校区でまちづくり計画を策定しています。
- コンパクトシティについて申し上げますと、現状では車への依存度が非常に

¹ 環境に配慮して物品の購入を行うことを「グリーン購入」、環境に配慮した消費行動を行う人を「グリーン・コンシューマー」と呼ぶなど、一般に「グリーン」という言葉は環境への配慮を指す言葉として他の言葉と組み合わせられることがある。

「グリーン・コンパクトシティ」という言葉は一般的ではないが、環境に配慮したコンパクトシティづくりを含意する言葉として用いられている。

² 郊外における開発に対して、鉄道駅などを中心とした伝統的な都市モデルを提唱する都市計画のひとつの潮流。

高くなっています。買い物でも田原の外、豊橋・浜松に出かけることが多くなっています。

自家用車に依存しないまちづくりとありますが、お年寄りで車を利用している人も多く、車がないと生活できないのが現状です。

公共交通もあまり利用されていない現状で、高校生もバスを使わずに車で送り迎えしてもらっているケースが増えています。

通勤・通学にもう少し利用されるものを目指していく必要があると思います。

委員 資料はよくできていると思います。

私は、道路網について関心を持っているのですが、道路が良くなると人やものが出て行ってしまうという傾向はありますが、逆に入ってくる時の利便性は高まります。

この地域は農業日本一ですから、できたものをできるだけ早く全国に送るためにも道路が重要になってきます。工業製品についてもそうですし、渋滞の解消も大きな課題です。

そのような意味で、全体の道路網整備をきちんと進めていく必要があると考えています。

コンパクトシティについてですが、今まで、農業中心の町でしたから集落が広く分布しています。しかし、今後は、住宅が集落から離れたところに建てられないようにするなどしていかないといけないと思います。

田原駅前については、駐車場の利用促進ができるといいと思いますし、鉄道ももう少しスピードアップできるとさらに利用が増えると思います。豊橋駅では渥美線と JR 線、名鉄線との相互乗り入れが進められています。そうなる、もっと便利になりますから、これに対応したまちづくりも必要ではないかと思います。

委員長 道路整備の重要性についてご指摘いただきました。

農業、工業の振興やこれに伴う住宅立地などに対応していくためには、道路が重要になってきます。また、市では、3つの市街地を20分で結ぶという計画をお持ちですが、何のためにそういうことを進めていくのかについてより具体性を持たせたほうがよいのではないかと思います。

委員 どこに行くにも時間がかかりすぎるように思いますので、公共交通網や自動車交通網などの整備が重要だと考えています。

委員長 市単独ではできないこともあるでしょうし、市民の意見を集めて、国や県と連携していく必要があると思います。

委員 道路の話になりますが、物流の面で見ると、高速自動車道に乗るまでに時間がかかりすぎる現状で、資料にも書いていただいているのですが、高速自動車道へのアクセス改善が重要だと思います。

委員長 高速までの時間がかかりすぎるということですね。

- 委員 空いているときはいいですけども、混んでいるときには時間がかかり、定時性を確保することが難しい状況です。
- 委員 皆さんご指摘のように、道路網の問題が重要だと思っておりますが、県全体で見ても、東三河地域が遅れているように思います。
また、セントファールから駅前までの区間の整備もなかなか進んでいませんので、迅速に対応してほしいと思います。
- 委員 高齢化が進んでいる状況ですが、少しでも子供を生みやすくする環境整備が重要ではないかと思えます。
農家ではお嫁さんが来ないという問題がありますし、最近の話題では、妊婦さんが救急車でたらい回しにされた問題など、こうした問題が発生しない環境づくりが大切だと思います。
遊休農地についてですが、所有者に適正管理をお願いしてはいますがなかなか進まない現状です。市民農園などの利用について書かれてはいますが、他にアイデアはないでしょうか。
道路を作るのはいいのですが、歩道に雑草が生えています。維持管理もきちんとしていただければと思います。
また、渥美縦貫道や伊勢湾口道路の整備をぜひ進めていただきたいと思えます。
- 委員 これからのまちづくりについては、人口フレームを検討したうえで進めていただければと思います。また、このまちは、愛知県の中でも農業、工業の盛んなまちですので、産業規模に関するフレームも重要になってくると思います。
産業活動が盛んな地域でのコンパクトシティを進めていく上では、高齢化の進展を考えると車にのれない人が増えてくると想定されますので、道路一辺倒では問題が生じる可能性があり、道路に頼った生活は心配です。
都市構造についていうと、農振農用地に住宅が多く立地していますが、こうなってきた推移を調べておく必要もあるのではないかと思います。
都市機能についての分析が少し不足しているのではないかと思います。商業機能、医療機関などの分布が示されていません。今後の考え方としては、分担・連携ということになると思いますので、整理していただきたいと思えます。
防災についてですが、緊急輸送道路の整備について書かれていますが、田原市の場合、港湾の活用を考えていただきたいと思えます。
環境については、農地が多いことや自然公園に指定されていることもあり、環境に恵まれた地域です。風車もずいぶん立てられていますが、東三河の農業は石油や電力への依存度の高いのが特色で、農業における自然エネルギーの活用なども計画に含めると地域の特色がはっきりすると思います。
- 委員長 災害時の港湾の活用については面白いと思えます。

上下水道のところでは管路の耐震化について述べられていますが、防災のところではそうした点についての記述がなく、ライフラインの確保といった視点で記述を追加してはどうかと思います。

いろいろなご意見をいただきましたが、もう一度皆さんにご意見をいただきたいと思います。

委員 市街化区域と市街化調整区域での人口分布にもよりますが、身近な公園や緑の分布などももう少し詳細に分析していただきたいと思います。

委員長 公園については、量的な不足が指摘されていますが、3つの市街化区域での都市化の経緯を検討した上で、農地、緑地の分布状況などを考えて無理のない計画にしたほうがよいのではないかと思います。

リアルな実態に基づいた分析を行ったうえで、地域にふさわしい計画作りが大切だと思います。

委員 観光客の減少について、特に、海水浴客の減少が著しいわけですが、私も車で来たときの経験からも非常に遠いという印象があります。他地域で道路整備が急速に進んでいますので、相対的に遅れてしまっており、これが遠いという印象につながっているのではないかと思います。

もう一度鉄道の延伸といったことを考えてもいいのではないのでしょうか。

委員 既存の計画や現状ばかりではなく、遠い将来に向けて夢を描くことも大切ではないかと思います。

また、どこにでもある工業都市ではなく、歴史や自然を活用して特色のある地域であることをPRしていくことが大事ではないのでしょうか。

道路についても全般的にではなく、何のためにどこどこを結ぶのかといったきめ細かい検討が必要だと思います。

今私が住んでいるところは、時間はかかりますが都心まで歩いていける場所ですので、年をとっても買い物にいけると思っています。これから老年寄りが増えていきますので、都心居住のための住み替えといった施策が重要になってくると思います。

委員 地域の特性を生かしたまちづくりをぜひ進めていただきたいと思います。

自然や歴史を活かしてほしいと思います。

田原、赤羽根、福江市街地の特色を生かすという意味で、漁港の活用を検討していただきたいと思います。現実には、地元の魚を地元で食べられない現状です。観光客も減っており、このような取組みを充実させていく必要があると思います。

委員 先ほど観光の話が出ていましたが、渥美で観光客が減少しているのが大きいと思います。伊勢湾岸道路ができて高速道路が便利になったことも一つの要因であり、観光客は、距離ではなく時間を重要にしていると思います。

委員 長い先を見据えた計画を作っていただきたいと思います。

委員長 特に人口の将来推移が重要ですので、今後、検討をお願いします。

- 委員 海水浴客の減少についてですが、目的地に着くまでの景色を楽しむということも大切だと思いますが、道を走っていても海が見えません。花も植えられてはいますが、点でしかなく連続性がないと思います。
- 委員 湾岸道路が開通した年からバスが減少しています。フェリーの便数も減っています。
- 委員 ハードウェアに関連して申し上げておくと、歩道の整備が遅れているのではないかと思います。
- 委員 遊休農地をお借りして菜の花を植えるという事業を展開していますが、まとまった遊休農地が無く、なかなかまとめることができない現状です。菜の花街道のようになるといいと思います。
- 委員 現在、遊休農地には、春は菜の花、夏はひまわりを植えています。
- 委員長 岐阜の大正村や岩村では田んぼのあぜがきれいに手入れされている農家が多いです。手入れされたあぜを見るととてもきれいに感じます。
- 委員 田んぼのあぜの手入れに補助が出る制度もあるようです。
- 委員長 渥美や赤羽根では農地をどう見せるかが大切ではないでしょうか。
- 委員 夜道を走っても、電照菊で美しいところはあまり見かけないです。
- 委員 電照菊は夜 10 時ぐらいからです。
- 委員 人口についてですが、田原はまだ増えると思いますが、赤羽、渥美に関しては減ると考えられますので、それぞれ別々に考えていただきたいと思います。
- 委員 確かに渥美半島は遠いですが、『二地域居住』³が進めばむしろ利点でもあり、そういうニーズに応えることのできる地域ではないかと思います。
- 委員 コンパクトシティの本を書いたイギリス人がいますが、その人は老後を田舎で過ごしています。田舎でも、きちんと住宅を手入れしておけばいろいろなニーズに対応できるのではないかと思います。こうした点については再度検討していただきたいと思います。
- 委員長 いろいろご意見をいただきましたが、ご意見の中から都市計画に結びつくものを選んでいくことになると思います。
- 事務局 今日、交通網の整備、地域の魅力の引き出し方などについて多くのご意見をいただきました。
- 委員長 議題 4 についての意見交換はこれで終了したいと思います。
(議題 5 の「その他」について事務局に説明を求める。)
- 事務局 (資料 3、資料 4 について説明)
- 委員長 以上で閉会とします。

³ 都会に暮らす人が、週末や一年の内の一定期間を農山漁村で暮らすライフスタイルのこと。

(席次表)

委員長席	
三宅委員	(欠席)遠藤委員
海道委員	高田委員
寺元委員	平野委員
木村委員	中神委員
富田委員	(代理)森部委員
本田委員	
街づくり推進課長	都市整備部長
	副市長
	事務局



(会場の様子)